



日本細菌学会 北海道支部会報

特集 微生物研究者の集い
—異分野横断的な情報交換の場—

2015 年 12 月 第 24 号

編集・発行 日本細菌学会北海道支部

目 次

＜ 第 82 回日本細菌学会北海道支部学術総会報告 ＞	…	1
第 82 回日本細菌学会北海道支部学術総会を終えて		
北海道医療大学 歯学部	中澤 太	… 2
最優秀賞を頂いて		
北海道大学 保健科学研究院	大久保 寅彦	… 5
優秀賞を受賞させていただき		
札幌医科大学 医学部	佐藤 豊孝	… 7
優秀発表賞を受賞して		
酪農学園大学 獣医学群	福田 昭	… 9
＜ 特集 微生物研究者の集い -異分野横断的な情報交換の場- ＞	…	10
はじめに		
細菌学会北海道支部会報編集委員長	白石 宗	… 11
札幌微生物勉強会		
北海道大学 人獣共通感染症リサーチセンター	大西 なおみ	… 12
生物間ネットワークセミナー		
産業技術総合研究所 生物プロセス研究部門	菊池 義智	… 16
札幌微生物研究者合同セミナー		
札幌医科大学 医学部	白石 宗	… 19
＜ 第 5 回日本学術振興会育志賞受賞の挨拶 ＞	…	23
第 5 回(平成 26 年度)日本学術振興会育志賞を受賞して		
北海道医療大学 歯学部	眞島 いづみ	… 24
＜ 新評議員による研究紹介 ＞	…	26
ご挨拶		
酪農学園大学 獣医学群	樋口 豪紀	… 27
＜ お知らせ ＞	…	29
第 83 回北海道支部学術総会を主催するに当たって		
北海道大学大学院 歯学研究科	柴田 健一郎	… 30

日本細菌学会北海道支部会則	…	32
日本細菌学会北海道支部学術総会歴代開催記録	…	36
日本細菌学会北海道支部 平成 28-29 年度新役員・名誉会員名簿	…	39
編集後記		
日本細菌学会北海道支部長	横田 伸一	… 42

第 82 回日本細菌学会北海道支部学術総会報告

第 82 回日本細菌学会北海道支部学術総会を終えて

第 82 回日本細菌学会北海道支部学術総会長

北海道医療大学 歯学部 微生物学分野

中澤 太

平成 27 年 9 月 5 日(土曜日)に、北海道医療大学あいの里キャンパス 心理科学部講義室において、第 82 回日本細菌学会北海道支部学術総会を無事に終了致しました。演題登録、御参加および御協力頂いた会員各位に深く御礼申し上げます。

昨年の札幌医科大学等、最近の 3 年は金曜日と土曜日の 2 日間の開催でしたが、再び従来の慣例に戻り、土曜日一日の開催とさせて頂きました。また今回は、プログラム・抄録集の冊子体での事前配布はせずに、日本細菌学会北海道支部の HP に PDF ファイルでアップし、個々の会員の方々から DL して頂く方式と致しました。御不自由をおかけしたかもしれませんが、御理解と御協力に感謝申し上げます。

会場が、札幌市中心からやや離れたあいの里であったにも拘わらず、当日の学術総会参加者は約 60 名で、懇親会参加者は約 30 名でした。日本細菌学会北海道支部会の会員数が約 120 名ですので、全会員の約半数が学術総会に参加し、その半数が懇親会に参加したことになります。この数字は、日本細菌学会北海道支部の活性が極めて高いことを示していると、深く感銘しております。

今回は特別講演を、京都大学大学院生存館・特定教授の光山正雄先生にお願い致しました。光山先生は御多忙にも拘わらず(翌週から海外出張予定)、快くお引き受け下さったと同時に、「どの支部会も予算は厳しいのだから」と、格安航空券のパック料金と北海道支部規定の謝礼に御理解を頂きました。「細胞内寄生菌研究 37 年間から学んだもの」と言うタイトルの特別講演では、*Listeria monocytogenes* の感染と宿主免疫応答に関する膨大な研究成果を分かりやすく講演して頂きました。また、“現象⇒何故⇒推定⇒実験⇒解釈⇒確認”と言う、研究の基本的原則の在り方について、光山先生の視点からお話は、若手研究者のみならず聞かれた多くの先生方に、深い感銘を与えたと考えています。

また、今回の北海道支部学術総会では、支部長の横田先生の御仲介で、初めてのランチョンセミナーを開催しました。(株)日本微生物研究所の佐藤寿夫先生のセミナーでは、腸管出血性大腸菌 EHEC の検出の複雑性と今後の展開について、大量のデータと共に御説明頂き、深く感謝しております。

一般演題については、特別の依頼をしなかったにも拘わらず 24 題の応募を頂きま

した。この数は、「討論時間や終了時間を考えて、開催校である北海道医療大学歯学部微生物学分野からは演題の応募を断念する」と言う、嬉しい悲鳴でした。また、24題中、18題が支部会賞対象の演題(75%)でしたので、昨年(86%)同様、北海道支部会の若手研究者の活躍が続いていることがあらためて確認できました。北海道支部学術総会参加者全員による投票の結果、支部会賞最優秀賞は大久保寅彦先生(北海道大学保健科学研究所)、優秀賞は佐藤豊孝先生(札幌医科大学医学部)と福田昭先生(酪農学園大学獣医学群)に決定致しました。

次年度は、北海道大学大学院歯学研究科口腔分子微生物学教室の柴田健一郎先生を総会長として、2016年9月17日(土曜日)に、第83回日本細菌学会北海道支部学術総会が開催される予定になっています。今後も、日本細菌学会北海道支部学の高いポテンシャルを維持し、更に活発な支部学術総会となるよう心から祈念致します。





中澤 太 (Nakazawa Futoshi)

〈略歴〉

新潟県南蒲原郡田上町出身。新潟大学農学部大学院修了。

新潟大学歯学部口腔細菌学講座助手、講師、助教授。

2004 年北海道医療大学歯学部口腔微生物学分野教授、
現在に至る。

〈主な研究テーマ〉

偏性嫌気性細菌と口腔バイオフィルム

〈趣味〉

ボールルームダンス、ビール飲み

最優秀賞を頂いて

北海道大学 保健科学研究所 病態解析学分野

大久保 寅彦

この度、第 82 回日本細菌学会北海道支部学術総会におきまして、発表演題「大腸菌と繊毛虫の共培養時におけるクオラムセンシング分子 **autoinducer-2** の増加」に対して最優秀賞を頂くことができました。皆様に厚く御礼申し上げます。総会と懇親会の後、電車で帰路についていた際に、ちょうどモエレ沼の花火大会を遠くから眺めることができました。自分へのご褒美のように感じられ、花火を見ながら勝手に嬉しくなったことが当日の思い出です。

本研究室では以前から細菌 **Bacteria** と原生動物 **Protozoa** の相互作用に着目して研究を行なっております。原生生物(アメーバやゾウリムシなど)は細菌に比べると知名度が低く、研究対象としての人気は高くありません。しかしながら実際の自然環境中では、細菌は異種の細菌や原生動物、真菌、ウイルスなどと生存競争を繰り広げながら生息しているわけであり、そうした微生物同士で常に相互作用を及ぼしあっているはずで、そうした関係性にスポットを当てることで、純培養だけでは分からない新たな発見を目指すのが本研究室のコンセプトのひとつです。これまで本研究室では、アメーバ内に共生するクラミジア目細菌がアメーバの生存性に寄与することや、大腸菌と繊毛虫を共培養すると大腸菌間でのプラスミド伝達頻度が上昇することを明らかにしております。今回の発表内容はそれに続くものであり、繊毛虫が細菌の情報交換システムであるクオラムセンシングに影響を与えている可能性を示すものです。他の先生方のご発表内容と比べますと些か異色な内容であったかと思いますが、これも北海道支部会ならではの多様な研究テーマのひとつとして受け取って頂ければ幸いです。今回の受賞を励みに、今後もこうした研究に取り組んで行きたいと考えております。

と、ここまで述べて参りましたが、私は本年 5 月より現職に着任したばかりであり、本研究の立案や実験操作には携わっておりません。そういった状況で表彰を受けるのは若干心苦しいのですが、純粋にプレゼンテーション内容を評価していただいたものと解釈させて頂くことに致しました。実際の実験作業を行なって頂いた、北海道大学病院の小栗聡先生、並びに本研究室の松尾淳司先生に、この場を借りて改めて御礼申し上げます。また、本総会の開催に当たってご尽力頂いた総会長の中澤先生はじめ北海道医療大学の先生方と支部会関係者の皆様にも合わせて感謝申し上げます。ありがとうございました。



大久保 寅彦 (Okubo Torahiko)

〈略歴〉

東京都三鷹市出身。2015 年 3 月酪農学園大学大学院獣医学研究科博士課程修了、同年 5 月より北海道大学保健科学研究院、現在に至る。

〈主な研究テーマ〉

食品中や環境中における細菌と原生生物の相互作用の解明

〈趣味〉

野鳥観察。いつかトキを見るために佐渡島へ行くことを画策中。

優秀賞を受賞させていただき

札幌医科大学 医学部 微生物学講座

佐藤 豊孝

札幌医科大学微生物学講座の佐藤と申します。この度はこのような名誉ある賞を受賞させていただき大変感謝いたしております。本学会への参加は二年ぶりになります。(博士号を取得後約 2 年間アメリカでポスドクをしておりました)。久しぶりの発表ともあり、些かぎこちない発表となってしまいましたが、皆様に興味をもって聞いていただけたことに安堵しております。本学会は私が酪農学園大学獣医学部生の頃から参加させていただいており、今回で 5 回目であったと記憶しております。このように私にとって本学会は成果を発表させていただき、演者の方々の発表を聞き、学び、そして育てていただいた(ている)学会です。本受賞もこの北海道の地で本学会に所属する諸先生方の度重なるご指導によるものだと強く感じております。どうもありがとうございます。

本演題のテーマは「チゲサイクリン非感受性大腸菌はフルオロキノロン耐性大腸菌に多く認められる」でした。これまで細菌感染症治療薬であり臨床現場で一般的に用いられている抗菌薬のフルオロキノロン耐性に注目した研究をしてきました。今回はさらにチゲサイクリンという多剤耐性菌への最終手段とされる抗菌薬への耐性に着目し、本抗菌薬耐性はフルオロキノロン耐性大腸菌の一部に認められるということ、さらに両薬剤の耐性には薬剤排出ポンプが関与しているということを明らかといたしました。臨床的な意義として、一般的に使用される抗菌薬への耐性機構の獲得により、多剤耐性菌への最終手段となる抗菌薬が既に効かなくなっている菌株集団が存在するというものです。このような耐性菌の情報およびその機構を解析し提供することも重要であります。最近では、ではこれらの危険な菌をどのように制御していくべきか、その手段についての研究をしていく必要があるなど強く感じております。本受賞を励みに、本講座の教授である横田伸一教授、そして本講座所属スタッフの方々の一層のご指導の元、このような仕事に取り組んでいければと考えております。

私事になりますが、本受賞はこれまでとは 3 倍うれしい受賞となりました。というのも、もう一人の優秀賞受賞者が、私の出身教室(酪農学園大獣医食品衛生学)の現大学院生の福田君であったことです。彼のハエを使った研究というかなりユニークなテーマが共に優秀賞を受賞できたことにうれしさでいっぱいです。ですので彼の受賞は私にとって 2 倍うれしいものとなりました。さらにこの喜びはまだ終わらず、最優秀賞は大久保先生(普段はもっと砕けた呼び名がありますが)が受賞いたしました。大久保先生も

同教室出身であり、恩師である田村豊教授および臼井優講師のもと学部・大学院生活を共にした後輩であります。彼とはいつも実験の熱いディスカッションからふざけたトークをし、そしてなにより二人でよく夜中まで実験をしていました。そんな彼の受賞は私にとって3倍の喜びとなりました。彼の発表はいつもすばらしいものなので私自身見習いたいところが多くあります。本発表も大変興味深い内容でした。ですので、一連の受賞には驚きましたが彼の受賞自体には何も驚くところはありませんでした。この一連の受賞という結果は、当時からご指導いただいている田村先生と臼井先生のお力だと感じております。恐縮ではありますが、この場をお借りさせていただき、改めて感謝申し上げます。どうもありがとうございます。

最後になりますが、今回いただいた優秀賞に恥じぬよう一層気を引き締め、皆様のご指導を賜りながら(そして後輩に追い抜かされないように)研究に励んで参りたいとおもいます。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。どうもありがとうございました。



佐藤 豊孝 (Sato Toyotaka)

〈略歴〉

北海道釧路市出身。2013 年酪農学園大学獣医学研究科博士課程修了、2013-2015 年 Laboratory of Human Retrovirology, Leidos Biomedical Research Inc., Frederick National Laboratory for Cancer Research. Postdoctoral Fellow (Contractor of NIAID, NIH), 米国, 2015 年 4 月札幌医科大学医学部微生物学講座、現在に至る。

〈主な研究テーマ〉

薬剤耐性菌(特にフルオロキノロン耐性)の分子疫学および耐性機構の解明とその制御に関する研究

〈趣味〉

フットサル、読書、ドライブ、カフェ巡り

優秀発表賞を受賞して

酪農学園大学 獣医学群 食品衛生学ユニット

福田 昭

この度、第 82 回の日本細菌学会北海道支部学術総会において発表いたしました「鶏舎環境での薬剤耐性菌の伝播及び維持におけるハエの役割」という演題に対しまして、優秀賞を頂くことができましたことに厚くお礼申し上げます。

北海道支部学術総会では、細菌からクラミジア、アメーバといった様々な微生物の演題がある中、薬剤耐性菌を含む微生物の運ぶ存在としてハエに着目して行っている研究を昨年に続き発表いたしました。人・獣医療の場で発生した薬剤耐性菌が野外環境に拡散し、再び医療現場に侵入することで細菌感染症の治療を困難にする恐れがあります。その中でハエは野外環境と生活圏とを行き来する存在であり、薬剤耐性菌を含む微生物の運び屋として注目されており、薬剤耐性菌のみならずその耐性遺伝子をも運ぶことが明らかになってきています。

私自身、研究室配属の際には、薬剤耐性菌に関する **Bacteriology** をテーマとして卒業論文をやるのだらうと思っていましたが、現在は **Medical Entomology** といった内容になってきているような気がしています。しかし、研究を始める際に「テーマを楽しいものにできるか、楽しめるかは、自分次第だぞ」と言われ現在まで続けて行った結果、皆様に興味を持ってもらえ、自分自身も楽しんで研究を進めさせてもらっています。

最後になりますが、この度発表の機会を与えて頂きました北海道医療大学の中澤太先生をはじめとしますスタッフの皆様、また日々ご指導いただいています田村豊先生、臼井先生をはじめ、研究室のメンバーに感謝申し上げます。

福田 昭 (Fukuda Akira)

〈略歴〉

大阪府大阪市出身。2014 年酪農学園大学獣医学部卒業、同年酪農学園大学大学院入学。獣医師。

〈主な研究テーマ〉

薬剤耐性菌の伝播・拡散におけるハエの役割

〈趣味〉

水泳、スノーボード、ライブ参戦



特集 微生物研究者の集い
-異分野横断的な情報交換の場-

はじめに

今年の特集は、「微生物研究者の集い－異分野横断的な情報交換の場－」と題して、札幌で定期的に行われているセミナーを紹介します。今回紹介するセミナーは、「札幌微生物勉強会」、「生物間ネットワークセミナー」、「札幌微生物研究者合同セミナー」の3つです。これらは「微生物」というキーワードを介して異分野横断的なセミナーという点で共通しています。我々の周りにはまだまだ未解明の課題が数多く存在し、これらの課題解明には、今後異なる分野での共同研究がより重要になってくると考えられます。それぞれの分野の専門家が協力して一つの課題に取り組むことは、単独での研究に比べて、ときに何倍もの推進力になります。また、これから先、特に大きな研究費用を獲得したい場合、異分野横断的なチームで効率的に仕事を進めることが必須になると思われます。しかし、数多くの専門的な学術大会はあるものの、異分野横断的な集闘会はそう多くはありません。さらに、我々は隣の研究室がどんなことをやっているのか、意外に知らない場合が多く、まだまだ研究者間のコミュニケーションを活性化させる必要があると感じます。一方で、北海道(札幌)には、異なる分野の研究者が集まるセミナーがある！そんな背景のもと、今回の特集を企画しました。

普段、思わぬところから研究のヒントが得られたり、なんてことはありませんか？異分野横断的な3つのセミナーは、そんな機会が得られるセミナーだと思います。是非、今回紹介するセミナーに足を運んでみてはいかがでしょうか？

最後に、今回紹介するセミナーは、残念ながら全て札幌開催となっております。札幌以外の支部会員みなさまには、セミナーの存在を知っていただき、札幌出張等でお時間が合えば、ご参加されてみてはいかがでしょうか？

日本細菌学会北海道支部会報編集委員長

札幌医科大学 医学部 微生物学講座

白石 宗

札幌微生物勉強会

運営母体：札幌微生物勉強会実行委員会

大西 なおみ（北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター）

加藤 創一郎（産業技術総合研究所北海道センター）

小池 聡（北海道大学大学院農学研究院）

花島 大（北海道農業研究センター）

開催：年 2 回程度

ホームページ：<https://www.facebook.com/SBB.microbiology/>

2010 年冬、現実行委員の 2 名（花島・小池）による、「お互い近くにいるのに集まる機会がないよね」という会話をきっかけに札幌微生物勉強会は発足しました。本会は札幌を拠点に活躍する微生物研究者の分野横断的かつ所属機関横断的な交流を促進することを目指し、これまで 11 回の講演会を行ってきました。御陰様で今では本会の参加者は北海道大学、産業総合技術研究所、農業研究センターのみならず、札幌医科大学、酪農学園大学や動物衛生研究所北海道支所からお越しいただくようになり、札幌近郊の主な研究機関を網羅しつつあります。この度、細菌学会北海道支部会報紙において紙面をいただきましたので、本会のコンセプトと開催概要を紹介させていただきます、将来の更なる発展の形を考えてみたいと思います。

コンセプトは「対外試合」

本会はいわば「若手研究者の対外試合」の場となることを目指しています。他の研究所に行って、初めて会う、且つ分野が異なる研究者に対しても興味を持たせるように講演をする、芸術や相撲でいう出稽古のような。「試合」というと堅く聞こえるかもしれませんが、実際の講演会はもちろん真剣である一方、とてもフランクで対話的な雰囲気で開催されています。これまでの講演者は理学、農学、工学、水産学、医歯薬獣医学系の様々な部局からお招きし、講演内容も微生物生態、共生、極限微生物、病原微生物、さらには企業から研究手法の最先端を紹介いただく等、きわめて多岐にわたるものとなりました。全員が自分の研究内容とは異なる分野の講演を初めて聞く機会です。毎回の講演の途中にも自由な、生き生きとした質問が多くなされています。また、第 4, 5, 9 回時には大学院生を含む若い研究者を対象としたポスターセッションを併せて開催し、学会発表の練習及び復習の機会としても効果的であったと好評を博しまし

た。さらに本会では、講演会の後には懇親会を行うことも恒例としています。第 6 回時には懇親会を温泉で行うという試みもありました。会を重ねる毎に参加者数は伸び続けており、ますます交流の深まる充実した機会になっていると自負しています。

札幌発、国内外の研究者間交流促進を目指して

本会は「札幌」と銘を打ちますが、その交流範囲は札幌市内に限定されるわけではありません。第 10 回講演会では初めて道外から瀬川博士（国立極地研究所）をお招きし、南極における極限微生物の研究についてご講演をいただきました。また、昨年度まで本会の発展に尽力された石井聡博士（当時、北大・工）は 2015 年度 4 月より米国のミネソタ大学へ赴任されました。札幌近郊の研究者間の連携を基盤とし、今後はこのような札幌に縁のある研究者ネットワークを広く活用して「札幌に來たい！呼ばいたい！」という研究者を国内外からお招きし、交流の輪を拡げていきたいと考えています。

縦・横・ナナメの交流が生み出すもの

おそらくこの記事を読む全ての人は、これまでに人との出会いを通して研究活動が支えられたという実感をされた経験があると思います。学生時代の指導教官には動機を与えられ、基礎教育を通して研究推進力を養ったことでしょう。同期や同僚には、プレゼンの練習会でアドバイスをしあい、多くの刺激を受けたことでしょう。共同研究者と信頼関係を築くなかでアイデアを形にしていっていったこともきっとあると思います。いえ、たとえ、ずっと研究室で集中して研究をしても良いのです。重要なことは、人と出会い喋る中で、新しい知見が生み出され得るということです。今まで「細菌学こそ私の領域だ」と思っていた自分が、寄生虫学の研究者と意見を交換する。「私は病態医科学が専門だから」、と思っていた自分が農学の人と話して、「なるほど、同じ手法が使えるな」、「同じことを考えていた！」と発見をする。困った時に誰がヒントをくれるのかをすぐに思い付くことも重要な研究能力であり、まさに交流のネットワーク構築の賜物です。札幌微生物勉強会は、札幌近郊の研究者にこのような様々な方向性の交流を提供する機会であり、今後の分野発展の礎を担う多くの研究者の総合力構築に貢献していきたいと考えています。研究に携わる人はすべからく「喋ってなんぼ」です。多くの方のご参加をお待ちしております。

札幌微生物勉強会では、メーリングリストで情報交換を行っています。参加希望の方は URL (<http://goo.gl/kqpTdq>) にアクセスしていただくか実行委員までお知らせ下さい。また、講演者の自薦・他薦を随時募集致します。奮って立候補して下さい！



写真：第 10 回札幌微生物勉強会の集合写真。渡米される石井聡先生の壮行会を兼ねて開催されました（北海道大学獣医学部講堂にて開催）。ターゲットスコープは実行委員。

直近の開催概要

第 11 回札幌微生物勉強会

2015 年 9 月 27 日 (金) 16:00-18:30

農研機構・北海道農業研究センター 3 階 大会議室

1. 「動物から環境を介して伝播する細菌・耐性遺伝子」
(酪農学園大学獣医学群食品衛生学ユニット 臼井優 先生)
2. 「Phylogenetic-guided functional discovery of glycoside hydrolase enzymes」
(北海道大学大学院農学研究院 高須賀太一 先生)

実行委員紹介

大西 なおみ (Ohnishi Naomi)	好きなもの: 息子、登山
加藤 創一朗 (Kato Souichiro)	好きなもの: 酒
小池 聡 (Koike Satoshi)	好きなもの: 自宅でのんびりする時間
花島 大 (Hanajima Dai)	好きなもの: 海外旅行、飲み会



大西 なおみ (Ohnishi Naomi)

〈略歴〉

富山県富山市出身。2008 年北海道大学理学研究科化学専攻博士後期課程修了、2008 年北海道大学遺伝子病制御研究所特任助教、2011 年北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター助教、現在に至る。

〈主な研究テーマ〉

細菌感染症の克服を目指して

〈趣味〉

料理、読書、息子

生物間ネットワークセミナー

運営母体：北海道大学大学院農学研究院

応用分子昆虫学研究室（浅野 眞一郎）

根圏制御学研究室（江澤 辰広）

基礎環境微生物学研究室（菊池 義智）※連携大学院

家畜栄養学研究室（小池 聡）

応用菌学研究室（曾根 輝雄）

微生物生理学研究室（吹谷 智）

開催：年 6 回（2 ヶ月に 1 回程度）

連絡先：y-kikuchi@aist.go.jp（※@を小文字にして下さい。）

サイト：<https://www.facebook.com/biologicalinteractionseminar>

生物間ネットワークセミナーは 2014 年より北海道大学大学院農学研究院の教員・学生を中心に発足された研究交流会であり、病原性微生物や共生微生物に関する話題を中心に、「生物間にみられる相互作用の不思議についてざっくばらんに語り合おう」というコンセプトのもとに始まりました。我々は日々研究のことを考え、論文を読み、実験をしているわけですが、ともすると“たこつぼ”的思考に陥ってしまい、**general** な面白みに欠ける“自己陶醉型研究”にどっぷりとはまってしまうことがままあります。北大農学院にはさまざまな観点から寄生と共生を研究している教員・学生がおり、ひと口に“寄生・共生微生物の研究”といっても立場はさまざまです。対象とする宿主生物は動物から植物まで広範で、扱う階層も生態系レベル、群集レベル、個体レベル、細胞レベル、分子レベルなど多岐に渡ります。そのような多様な視点を持ったメンバーが一堂に会して議論することで（好き勝手なことを言い合うことで）、それまでに見えなかった自分の研究の新たな側面や面白さが見えてくるかもしれません。あるいはスランプに陥っている研究でも、意外な方向から解決の糸口が得られるかもしれません。生物間ネットワークセミナーはこのような目的を持つ定期交流会であり、基本的には「あまり考えずに（自分の研究の立場から）好きなことを言い合う」風土



セミナーの様子。学生も交えて活発な議論がかわされます。

の下で運営され、またそれを大切にしています。

本セミナーが始まって2年になりますが、この間多くの方にご講演いただきました。これまでの生物間ネットワークセミナーの演目をひも解くと、以下ようになります。

- ★第1回 2014年6月20日(金)
講演1: 菊池 義智 主任研究員 (産総研・生物プロセス)
「ホソヘリカメムシと *Burkholderia* の腸内共生: その共生はどのくらい特異的なのか？」
講演2: 菊池 祐介 博士課程大学院生 (北大・農・根圏制御学)
「植物-菌根菌共生系における養分輸送メカニズム: 植物の蒸散が果たす役割」
- ★第2回 2014年7月14日(月)@産総研
青野 俊裕 助教 (東京大学生物工学研究センター)
「セスバニア根粒菌の宿主殺傷能—R-bodyの発現制御」
- ★第3回 2014年8月21日(木)
講演1: 曾根 輝雄 准教授 (北大・農・応用菌学)
「Gene-for-Geneからエフェクターへ ~イネいもち病菌の宿主特異性を担うAVR遺伝子とその産物の話~」
講演2: 福岡 直希 博士課程大学院生 (北大・農・家畜栄養学)
「ルーメン内繊維分解性細菌群における相互作用」
- ★第4回 2014年9月8日(月)
福田 真嗣 特任准教授 (慶應義塾大学先端生命科学研究所)
「もう一つの臓器: 腸内細菌叢の機能に迫る」
- ★第5回 2014年10月27日(月)
講演1: 藤田 龍介 博士研究員 (北大・農・応用分子昆虫学)
「バキュロウイルスと脊椎動物の関係とその応用利用」
講演2: 横山 楓 修士課程大学院生 (北大・農・根圏制御学)
「Molecular mechanism of phosphate export in the symbiotic interface of arbuscular mycorrhiza」
- ★第6回 2014年11月28日(金)
講演1: 伊藤 英臣 博士研究員 (産総研北海道センター・生物プロセス)
「昆虫と土壤微生物の共生: 農業害虫カメムシ-土壌間の殺虫剤分解菌の動態解明」
講演2: 阪中 幹祥 博士課程大学院生 (北大・農・微生物生理学)
「ビフィズス菌における遺伝子変異導入系の開発」
- ★第7回 2014年12月9日(火)
講演1: 内海 俊樹 教授 (鹿児島大学大学院理工学研究科)
「共生窒素固定系を支える植物のヘモグロビン」
講演2: 重信 秀治 准教授 (基礎生物科学研究所)
「Aphids evolved novel secreted proteins for symbiosis with bacterial endosymbiont」
- ★第8回 2015年4月21日(火)
講演1: 白石 宗 助教 (札幌医科大・微生物学講座)
「グラム陽性細菌のリボテイコ酸の構造多様性と表層局在」
講演2: 大林 翼 博士課程大学院生 (北大・農・基礎環境微生物学)
「カメムシから見てきた腸内共生系を支える新規分子メカニズム」
- ★第9回 2015年6月9日(火)
講演1: 堀 千明 学振PD (北大・農・樹木生物学)
「木材腐朽菌のゲノム・ポストゲノム解析から植物の分解メカニズムを理解する」
講演2: 小八重 善裕 特別研究員 (北農研)
「AM 共生の細胞生物学と農業利用」
- ★第10回 2015年6月25日(木)
中岡 慎治 助教 (東京大学大学院医学系研究科)
「共生微生物群集の数理モデルとシミュレーション研究」
- ★第11回 2015年7月21日(火)
佐伯 雄一 教授 (宮崎大学農学部)
「微生物生態に及ぼす人間活動のインパクト~農耕地における根粒菌選択圧~」
- ★第12回 2015年8月20日(木)
遠藤 明仁 准教授 (東京農業大学生物産業学部食品香粧学科)
「フルクトフィリック乳酸菌の発見とハチプロバイオティクスとしての可能性」
- ★第13回 2015年12月10日(木)開催予定
鎌形 洋一 生命工学領域研究戦略部長 (産業技術総合研究所)
佐藤 豊孝 助教 (札幌医科大・微生物学講座)
若手研究者10名によるショートプレゼンテーション大会

このように、北大構内のみならず外部の先生方にも多数ご講演いただいています。

いずれのご講演も大変刺激的で、「研究とは本当にいろいろな視点からできるものだなあ」と私自身とても勉強になっています。定期セミナーの継続にはエンターテインメント的要素が必要不可欠だと思いますが、外部の先生方によるご講演はまさにそれに当たり、本セミナーに心地よい刺激と彩りを与えてくれます。とはいえ、本セミナーの目的はあくまで内部メンバーの緊密な交流にあり、研究の“反応場”としての役割を担っていることを忘れてはなりません。本セミナーはこれから 3 年目に突入しますが、今後は“エンターテインメントとしての役割”と“反応場としての役割”の両面をより意識し、運営に努めて行かなければならないと考えています。特に内部演者による発表や交流会はともするとマンネリ化しかねず、今後の運営手腕が問われるところかもしれません。学生を中心とした企画やプレゼン大会など、教員のみならず学生が主体的に参加して楽しめるセミナーにして行くことが、これからの発展と定着を考える上で鍵になると思います。

「生物間ネットワーク」の名の如く“研究者間ネットワーク”が札幌で拡大し、異分野交流によって学生が成長したり、新しい共同研究が産まれたり、はたまた新しい研究費が獲得できたりしたならば、運営者としてはこれ以上のない喜びです。開催は不定期になりますが、もし参加希望の方がいらっしゃいましたら世話役の菊池まで是非ご連絡ください。いつでもどなたでも歓迎しております。

最後になりますが、日頃からご協力いただいている北大農学部の先生方、研究室の方々に御礼を申し上げたいと思います。



菊池 義智 (Yoshitomo Kikuchi)

〈略歴〉

福島県福島市出身。2005 年茨城大学大学院博士後期課程修了(理学博士)、2006 年日本学術振興会特別研究員、2010 年産業技術総合研究所生物プロセス研究部門研究員、2013 年同主任研究員、現在に至る。2015 年より北海道大学大学院農学院客員准教授。

〈主な研究テーマ〉

昆虫の腸内共生に関する進化生態学的研究。特にカメムシ類がもつ高度な腸内共生系の成立メカニズムについて研究している。

〈趣味〉

犬、子供、庭仕事(勉強中)

札幌微生物研究者合同セミナー

運営メンバー：

大西 なおみ（北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター感染・免疫部門）

大林 翼（北海道大学大学院農学院応用生物科学専攻）

菊池 義智（産業技術総合研究所北海道センター生物プロセス研究部門）

白石 宗（札幌医科大学医学部微生物学講座）

開催：年 1 回(12 月)

連絡先：shiraishi1020@sapmed.ac.jp ※@を小文字にして下さい。

札幌微生物研究者合同セミナーは 2014 年より企画されたセミナーです。第 1 回が昨年 12 月に開催されたばかりで、まだ産声を上げたばかりのセミナーになります。今年が第 2 回の開催になり、11 月現在準備が着々と進んでおります。

本セミナーが企画された発端は、現在の運営メンバーである 4 人で「忘年会をしよう！」というどこにでもある会話でした。そこから話がトントン進み、「せっかくならば 4 人ではなく、周辺の微生物に関わる研究者を集めて忘年会がしたい！」から「忘年会をやるならば、ついでにセミナーをやりたい！」と発展して開催へと至りました。

本セミナーは、農学、工学、理学、医学などなど、様々な分野で研究対象とされている微生物に関して、これらの学術分野の垣根を取り払い、幅広い分野の微生物研究者が情報交換できる場所にしたいという想いのもと企画されました。そのため、主に札幌を拠点に活動する微生物研究コミュニティが一堂に会することで、それぞれの研究領域を深く知り、所属機関横断的な微生物研究者ネットワークの構築の一助になることを目指しています。セミナーのプログラム作成もこの趣旨を考慮して行われ、本セミナーは様々な分野の先生や学生さん、はたまた企業の方や一般の方まで、多くの方を対象としています。さらに、このセミナーで重要なのが懇親会(忘年会)です。発端が忘年会の開催だったため、集まった様々な研究者の方に、忘年会として気軽に情報交換を行っていただきたいと思います。

このような背景のもと、初回である昨年は、渡辺真通先生(北海道大学農学研究院)、松浦優先生(北海道大学地球環境科学研究院)、五十嵐学先生(北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター)の 3 名を演者としてお招きして、60 名の参加者が集まりました。渡辺先生には、プロバイオティクスとして利用される乳酸菌について、宿主腸管への付着メカニズムに関する講演をして頂きました。また松浦先生には、昆虫において共生細菌を保持するために進化した「菌細胞」の発生制御機構について講演をして

頂きました。そして最後は五十嵐先生に、バイオインフォマティクス技術に基づく種々の計算科学的アプローチを用いたインフルエンザウイルスの表面糖タンパク質の分子進化を解明した研究について講演して頂きました。3名とも異なる学術分野で当日は活発な討論が行われました。また、その後の忘年会では学生さんも多く集まり、参加者の皆様にとっても非常に刺激になったのではないかと思います。

今年は、北海道大学大学院国際食資源学院で竣工されたばかりのセミナールームにて、演者として産業技術総合研究所の鎌形洋一先生、札幌医科大学の佐藤豊孝先生をお招きして開催されます。鎌形先生は、昨年まで産業技術総合研究所北海道センターの所長を務められ、難培養・難分離微生物の研究を先導する世界的権威です。佐藤先生は、抗菌薬耐性菌に関する研究で、今年の細菌学会北海道支部学術総会で優秀発表賞を受賞されました。過去にも支部会では優秀プレゼンテーション賞、最優秀発表賞を受賞されており、新進気鋭の若手研究者です。さらに、今年は新たな試みで「若手研究者 CUP -対外試合-」と称して、学生さんを含む若手研究者によるショートプレゼン大会を予定しております。優秀な発表者の方は豪華(?)副賞付きで表彰したいと思っています。もちろん忘年会も開催予定です。皆様どうぞご参加下さい。

最後に、今年から本セミナーの趣旨に賛同いただき、細菌学会北海道支部会より後援いただけることにもなりました。この誌面を借りて運営メンバー一同、心より感謝申し上げます。札幌微生物研究者合同セミナーはまだまだ誕生したばかりですが、微生物を扱う研究者の皆様にも少しでもお役立てできるよう毎年続けていきたいと思っています。今後皆様のところに講演依頼をお願いすることがあるかもしれませんが、その際はご協力をお願いいたします。

直近の開催概要

日時: 2014年12月19日(金)
15:00-18:00(セミナー)
18:00-20:00(忘年会)
場所: 北海道大学学術交流会館(セミナー)
ニコラスハウス北大百年記念会館店(忘年会)
参加費: 無料(但し、懇親会は学生 3,000 円、その他 4,000 円)



◎ 合同セミナー
日時: 2014年12月19日(金)15時~18時
会場: 北海道大学 学術交流会館 講堂

講演① 渡辺 真通 (北大・農学研究院・特任助教)
「セト菌属 *Lactobacillus mucosae* のアドヘンシバク菌も介した腸管に慢性感染の病態に関する研究」

講演② 松浦 俊 (北大・地球環境科学研究所・学振PD)
「クダモノムシと関係する細菌の生態とその宿主制御機構」

講演③ 五十嵐 亨 (北大・人間共通感染症リサーチセンター・准教授)
「人類共通感染症研究における計算科学的アプローチ」

◎ 合同大忘年会 (会費制: 3500円程度)
日時: 2014年12月19日(金)18時~20時
会場: 北海道大学 ニコラスハウス北大百年記念会館店 (旧: きゃら亭)

参加費 無料

◎ 生物圏ネットワークセミナー (北大・農研研)
◎ 札幌微生物勉強会 (北大工・農・人・医・食研研・生農研)
◎ 札幌医科大学微生物研究者 (札幌大医)
◎ 第10回前田学若手コロッセウム北海道支部

合同大忘年会企画団体

プログラム:

1. 北海道大学農学研究院 特任助教 渡辺真通 先生
【ヒト腸管由来 *Lactobacillus mucosae* のアドヘンシ様タンパク質を介した腸管付着性機構の解明に関する研究】
2. 北海道大学地球環境科学研究所 日本学術振興会特別研究員 PD 松浦優 先生
【ナガカメムシにみられる菌細胞の進化とその発生制御機構】
3. 北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター 准教授 五十嵐学 先生
【人獣共通感染症研究における計算科学的アプローチ】

今後の開催予定 (11 月現在)

日時: 2015 年 12 月 10 日(木)
14:00-18:00(セミナー)
18:00-20:00(忘年会)

場所: 北海道大学大学院国際食資源学院
セミナールーム(セミナー)
北海道大学農学研究院
オープンスペース(忘年会)

参加費: 無料(但し、懇親会は二千円程度)



プログラム:

特別講演

1. 産業技術総合研究所 ライフ分野戦略部長 鎌形洋一 先生
【未定】
2. 札幌医科大学医学部 助教 佐藤豊孝 先生
【人と動物から分離された薬剤耐性大腸菌の分子疫学的解析】

若手研究者によるショートプレゼン大会「札幌微生物研究者 CUP -対外試合-」
(10 演題程度で優秀な発表を表彰予定)



白石 宗 (Shiraishi Tsukasa)

〈略歴〉

山形県山形市出身。2004-2006 年東京農業大学大学院農学研究科博士前期課程、2006-2009 年ユニ・チャーム株式会社、2009-2010 年北海道大学大学院農学研究院微生物生理学研究室研究生、2010-2013 年北海道大学大学院農学院博士後期課程、2013 年札幌医科大学医学部微生物学講座 助教、現在に至る。

〈主な研究テーマ〉

グラム陽性細菌の細胞表層分子リポテイコ酸の構造多様性や局在、および機能に関する研究

〈趣味〉

フットサル、スノーボード、ドライブ、自宅でゴロゴロ映画鑑賞など

第 5 回日本学術振興会育志賞受賞の挨拶

第 5 回(平成 26 年度)日本学術振興会 育志賞を受賞して

日本学術振興会特別研究員 PD

北海道医療大学歯学部口腔生物学系微生物学分野

眞島 いづみ

この度は、第 5 回(平成 26 年度)日本学術振興会 育志賞の受賞に関し、日本細菌学会北海道支部の支部会報に頁を頂き、大変嬉しく思っておりますと同時に、御礼申し上げます。育志賞の受賞からもうすぐ一年が経とうとしておりますが、未だに信じられない気持ちでおります。

日本学術振興会(以下、学振)育志賞は、天皇陛下の御即位 20 年に当たり、若手研究者を支援・奨励するための事業の資として、学振が陛下から御下賜金を賜り、将来、我が国の学術研究の発展に寄与することが期待される優秀な大学院博士後期課程学生を顕彰することで、その勉学及び研究意欲を高め、若手研究者の養成を図ることを目的に、平成 22 年度に創設されました。授賞対象者は、人文学、社会科学及び自然科学の全分野に渡り、受賞者には、賞状、賞牌及び副賞として学業奨励金 110 万円が授与されます(参照: <http://www.jsps.go.jp/j-ikushi-prize/gaiyo.html>)。

これまでの受賞者は、ほとんどが旧帝大大学院出身であり、私立大大学院からの受賞者が極端に少なく、更に歯学領域での受賞者は皆無だったため、応募時は記念受験気分でおりました。応募したことも忘れかけていた昨年の 11 月初旬、「第 5 回育志賞書類選考通過」の連絡が入り、十分に驚く間もなく、面接選考の準備を慌ててしたことを覚えております。面接選考ではノーベル賞受賞者の先生方や、各学界の御高名な先生方を前に、大変緊張し、頂いた質問やご意見も今まで経験したことのないほど厳しいものでしたので、受賞は半ば諦めておりました。しかしながら実感に反して、幸運にも 1 月初旬に「受賞内定」の連絡を頂いた時には、しばらく雀躍致しました。3 月に日本学士院(上野)で開かれた授賞式は、天皇皇后両陛下ご臨席の下挙行され、また、受賞者一人一人と歓談させて頂く時間も設けて頂き、大変感動的な時間を過ごして参りました。

私が受賞した研究テーマは、「口腔バイオフィルム初期形成期の分子生物学的制御法の開発」というタイトルで、歯科の二大疾患と言われる、う蝕(虫歯)と歯周病の直接的原因である口腔バイオフィルムの形成を初期段階で抑制する手法の開発を試みたものです。その抑制手段として、細菌が産生する Autoinducer をはじめとした、菌体外産生物に着目しており、本研究の一部データは北海道支部学術総会でも発表させ

て頂いております。

これまで歴史が浅く、認知度が低かった育志賞ですが、年々競争倍率が高くなり、知名度も上がってきました。毎夏開催される北海道支部学術総会でも、精力的に研究発表されている大学院生が大勢いらっしゃいます。育志賞への挑戦は大学院生のみにも与えられたチャンスですので、是非、一人でも多くの本支部会の大学院生に挑戦して頂きたいと思います。

最後に、私は細菌学会の会員歴も浅く、研究者としてもまだまだ未熟者ではありますが、今後も上記のような口腔細菌学の研究を通して、また、一歯科医師として、自分の研究成果を臨床に還元できる基礎研究者を目指していきたいと思っております。このたびの受賞を深く受け止め、これからも、研究活動に励みながら、会員の一人として、北海道支部会の発展に尽くして参りたいと存じます。今後とも、北海道支部会皆様方の尚一層のご指導とご鞭撻をお願い申し上げます、受賞のご挨拶とさせていただきます。



眞島 いづみ (Mashima Izumi)

〈略歴〉

神奈川県横浜市出身。

2015 年 3 月 北海道医療大学大学院博士課程修了

2015 年 4 月 日本学術振興会特別研究員 PD、現在に至る。

〈主な研究テーマ〉

Veillonella 属細菌の系統分類と口腔バイオフィルムにおける遺伝・生態学的解析

〈趣味〉

音楽鑑賞、旅行

新評議員による研究紹介

ご挨拶

酪農学園大学 獣医学群 獣医学類 獣医衛生学ユニット

樋口 豪紀

この度、日本細菌学会北海道支部の評議委員を仰せつかりました、酪農学園大学獣医学群の樋口豪紀と申します。会員の皆様方から色々ご教授いただきながら、職責を果たせるよう努力して参りたいと思っております。ご指導のほど宜しくお願い申し上げます。

【経歴】私は、1998 年に酪農学園大学大学院獣医学研究科を卒業し、その後、日本学術振興会の研究員を経て、酪農学園大学(獣医学部・獣医衛生学教室)に勤務しております。就職した当時は、新生動物(牛)の免疫機構や、蹄(ひづめ)におこる病気について研究をしておりました。2004 年から 1 年間、エジンバラ(英国スコットランド)のモレダン研究所で、ウシ呼吸器疾患の主要な原因微生物であるパスツレラについて研究の機会を与えられ、これが細菌研究との初めての出会いになりました。帰国後は、所属しておりました研究室の主要なテーマであった、ウシ乳房炎(ウシで最も発生頻度の高い疾病)に仕事をシフトし、それらの原因微生物と宿主の免疫応答性に関する研究を進めております。現在は、特にウシのマイコプラズマ感染症について、日本細菌学会の諸先生方からも多くのご指導をいただきながら研究展開を図っているところであります。研究成果については、年 1 回開催されるマイコプラズマ学会で報告して参りましたが、前回、東京で開催された際に、北海道大学大学院歯学研究科の柴田健一郎教授より、暖かいお声がけをいただき、本年の北海道支部集会にも参加の機会をいただきました。

【ウシにおけるマイコプラズマ感染症の脅威】マイコプラズマにつきましては、会員の先生方もよくご承知のとおり、人では肺炎の原因微生物として広く知られているところであります。一方、動物、特にウシのマイコプラズマ感染症は、世界的に激増しており、獣医畜産領域ではその対応に苦慮しております。本微生物は子牛では肺炎、中耳炎および関節炎をひき起こし、成牛では乳房炎の原因ともなります。いずれも、抗生物質治療に対する応答性に乏しく、生産性も著しく阻害されるため、大きな農場ではその被害額が 1 億円にも及んだとの報道がなされております。我々の研究室では PCR による迅速診断技術を 2009 年にいち早く確立し、農場におけるマイコプラズマ感染症

の制圧に取り組んできました。

【今後の展開について】

牛のマイコプラズマ感染症については、解明されていない部分が非常に多く、そのことが、農場における本病制圧をより困難なものとしています。今後は、微生物学的なアプローチに加え、生体応答として免疫学的アプローチを行い、本病の制圧に向けて、実学的な研究を展開したいと思っております。細菌学については、まだまだ駆け出しです。学会員の先生方から多くのご指導を賜りたく思っておりますので、何卒宜しくお願い申し上げます。



樋口 豪紀 (Higuchi Hidetoshi)

〈略歴〉

北海道紋別郡湧別町出身。1998 年に酪農学園大学大学院獣医学研究科博士課程を修了後、日本学術振興会特別研究員。1998 年に酪農学園大学獣医学部助手、2000 年同大講師。2004 年から 1 年間、エジンバラの Moredun Research Institute で *P. multocida* について研究。2006 年同大助教授(准教授)、2014 年より教授。現在に至る。専門は獣医衛生学。

〈主な研究テーマ〉

生産動物のマイコプラズマ感染症

〈趣味〉

スコットランドで細菌学の次に勉強したスコッチウイスキーについて、勉強と称して毎晩、嗜んでいます。

お知らせ

第 83 回北海道支部学術総会を主催するに当たって

北海道大学大学院 歯学研究科 口腔分子微生物学教室

柴田 健一郎

来年度の第 83 回北海道支部学術総会をお世話させていただくことになりました。本学術集会を主催させていただくのは今回で 2 回目です。前回は 10 年前の平成 17 年の第 73 回の集会でした。前回は北大医学部の松本美佐子先生、札幌医大の黒木由夫先生、さらに旭川医大の若宮伸隆先生方による自然免疫シンポジウム、また、北大遺伝子病研究所の岩淵和也先生の「NKT 細胞の分化と機能」というタイトルで特別講演を設定しました。しかしながら、今回は本部からの支部支援金の削除等がありましたので、手作りで、エコな学術集会にしようと考えています。そのために、第 83 回北海道支部学術総会は平成 28 年 9 月 17 日土曜日に、会場は北大歯学部の講堂で、また、懇親会は歯学部のリフレッシュラウンジで行う予定にしております。

私は 2006 年から 2 期、北海道支部の理事を務めさせていただきましたが、能力不足で余り支部会の発展に貢献できませんでした。しかしながら、その後の菊池、山口理事のご努力のおかげで、本支部会の活動が急激に活性化してきていると思っています。そこで、たとえエコな集会といっても、活性化の流れをストップさせるわけにはいかないと考えております。支部会の活性化には若い研究者のモチベーションをあげることが重要であると考え、以前にも試みたことではありますが、口頭発表をしていた先生に、次の講演の座長をお願いすることにしようと考えています。また、今回も最優秀発表賞 1 演題、優秀発表賞 2 演題の設定は考えていますが、評価の公平性を保つために評価者は自分の所属研究室の発表者には投票できないようにし、評価点は平均点にしようと考えています。本年度の総会の時にお話しましたように、特別講演は大阪市立大学理学部の宮田真人先生に「運動性マイコプラズマの運動のしくみ」について講演をしていただくようお願いし、内諾も取っております。私は宮田先生と同時期に日本マイコプラズマ学会(以前は研究会)に入会し、活動してきましたが、彼ほど「好きこそ物の上手なれ」という諺が当てはまる人はいないと確信しております。そのような先生の講演を聴講するということは若い研究者には大きな刺激になると考え、特別講演をお願いしました。

本集会のお世話をするということはこれまでに二十数年間お世話になった日本細菌学会北海道支部会への恩返しと考え、エコな学術集会ではありますが、内容の濃い充

実した学術集会にしたいと考えています。そのためには多くの一般演題の発表が不可欠ですので、支部会員の皆様のご協力を何とぞよろしくお願い申し上げます。



柴田 健一郎 (Shibata Ken-ichiro)

〈略歴〉

出身：長崎県の島原半島にある国見町(高校サッカーで有名)

学歴・職歴等：1972 年—京都大学農学部入学、1978 年同農学研究科修士課程修了、同年—林原 KK 入社、1981 年—長崎大学歯学部 助手、1991 年—北海道大学歯学部 助手、1996 年—北海道大学歯学部 助教授、2001 年—北海道大学大学院歯学研究科 教授

学会活動等：日本細菌学会理事(2006～2008、2009～2011)、日本マイコプラズマ学会理事(2004～)、日本学術会議連携会員(2006～2008)、北海道歯学会理事(2001～)

〈主な研究テーマ〉

微生物の認識と排除機構の解明

〈趣味〉

スポーツ：{テニス(24 歳～52 歳)、ゴルフ(52 歳～)}、家庭菜園(リンゴ、枝豆、ササゲ、アスパラ、人参、トマト、ピーマン等)、読書(好きな作家：三浦綾子、遠藤周作)

日本細菌学会北海道支部会則

総 則

1. 本会は日本細菌学会北海道支部という。
2. 本会は北海道在住の細菌学関係研究者によって組織される団体である。
3. 本会は細菌学領域の進歩を促進することを目的とする。
4. 本会の目的を達成するために次のような事業を行う。

イ. 学術集会(学術総会・集談会等)の開催

ロ. 日本細菌学会本部との連絡

ハ. 国内の関係諸機関諸学会との連絡

ニ. その他必要と認められる事業

会 員

5. 本会の趣旨に賛成する人は会員となることができる。
6. 会員は会費を納めなければならない。
7. 会員はその業績を学術総会において発表することができる。
8. 会員は評議員1名以上の賛成を得た上で本会の運営に関する議案を評議員会に提出することができる。
9. 本会の趣旨に賛同し、本会の活動を援助するために、毎年一定の賛助会費を納めた団体あるいは個人を賛助会員とする。

役員及び役員会

10. 本会に次の役員をおく。

支部長 1 名

評議員 若干名

庶務係 1 名

会計係 1 名

幹事 若干名

会計監事 2 名

11. 次期支部長は現評議員の互選に基づきこれを定め総会において了承を得る。
12. 新評議員は会員の中から、支部長がこれを委嘱する。
13. 会計監事、幹事、庶務係及び会計係は会員の中から支部長がこれを委嘱する。
14. 支部長、幹事、庶務係ならびに会計係は会計監事になることができない。
15. 支部長は本会を代表し、会務を統括する。
16. 評議員は支部長の選出のほか、本会の事業の企画、立案、運営等について評議する。
17. 評議員会の議事は、出席者の過半数を持って決せる。但し、可否同数の場合は支部長の判断により決する。
18. 幹事は支部長を補佐する。

19. 会計監事は本会の会計を監査する。
20. 評議員会及び幹事会は支部長が召集する。
21. 役員の任期は 2 年とし再任を妨げない。
22. 役員に欠員を生じた場合の後任役員の任期は、前任者の残任期間とする。

集 会

23. 支部総会及び学術総会は、原則として年に 1 回開催される。
24. 支部総会において支部長は会務の報告を行う。
25. 本学会の運営の基本に関する事項及び本会則の変更は、会務総会において出席者の過半数の賛同によって決定する。
26. 時宜に応じて他の学会、研究会等と合同して集会を開催することができる。
27. 総会長は、原則として学術総会の一般演題より優秀な発表を選出しなければならない。その名称を日本細菌学会北海道支部会賞とする。ただし表彰の内容は総会長に一任する。

学術総会長

28. 学術総会長は、評議員会で推薦し、支部総会で決定する。

会 計

29. 本会の経費は会費及び賛助会費、日本細菌学会からの補助金、その他の収入をもってこれに充てる。
30. 本会の会計年度は 1 月 1 日に始まり 12 月 31 日に終わる。
31. 会計監事はこの会の会計の監査を行うものとする。

事務所

32. 本会の事務所は支部長所在の機関に置くものとする。

付 則

33. この会則は平成 3 年 2 月 27 日より施行する。
34. 会則の変更は評議員会の議決により支部総会の承認を必要とする。
35. 支部会員会費は年額 1,000 円とする。賛助会員は一口 10,000 円とする。
36. 講師謝礼金
 - イ. 集会の講師に対する謝礼金及び旅費を支出することができる。

ロ. 集会の講師謝礼金は、北海道在住の講師については 2 万円、その他の講師については 3 万円とする。

ハ. 講師謝礼金の変更は評議員会及び総会でこれを報告しなければならない。

37. 学生研究奨励金

イ. 北海道支部学術総会開催地と発表者が所属する大学・大学院とが遠隔である場合、助成金として 1 万円を支部会幹事・評議員会の審議を経て支給する。

ロ. 対象者は大学学部学生と大学院生とする。

38. この会則は平成 10 年 1 月 1 日より一部改正施行する。

39. この会則は平成 14 年 1 月 1 日より一部改正施行する。

40. この会則は平成 16 年 1 月 1 日より一部改正施行する。

41. この会則は平成 24 年 1 月 1 日より一部改正施行する。

42. この会則は平成 25 年 1 月 1 日より一部改正施行する。

日本細菌学会北海道支部学術総会 歴代開催記録

回	開催年月日	総会世話人 / 総会長	総会開催場所
18	1961.02.17	-	北海道大学医学部講堂
19	1961.11.28	-	北海道大学農学部新館
20	1962.02.17	植竹久雄（北海道大学医学部）	札幌医科大学西第 2 講堂
21	1962.11.17	飯田広夫（北海道立衛生研究所）	北海道立衛生研究所
22	1963.02.23	山田守英（北海道大学医学部）	札幌医科大学西第 2 講堂
23	1963.12.06	植竹久雄（北海道大学医学部）	北海道大学農学部本館中講堂
24	1964.02.22	平戸勝七（北海道大学獣医学部）	北海道大学獣医学部
25	1964.12.04	林喬義（札幌医科大学）	札幌医科大学西第 3 講堂
26	1965.02.19	三浦四郎（北海道大学獣医学部）	田辺製薬ビル 6F
27	1965.12.03	飯田広夫（北海道立衛生研究所）	北海道立衛生研究所
28	1966.02.18	伊藤英治（北海道大学理学部）	-
29	1966.12.09	大原達（北海道大学結核研究所）	田辺製薬ビル 6F
31	1967.12.09	林喬義（札幌医科大学）	札幌医科大学西第 3 講堂
32	1968.02.23	飯田広夫（北海道立衛生研究所）	札幌医科大学西第 3 講堂
33	1968.12.06	山田守英（北海道大学医学部）	武田ビル
34	1969.02.27	高橋義夫（北海道大学結核研究所）	武田ビル
35	1969.12.12	三浦四郎（北海道大学獣医学部）	武田ビル
37	1971.01.22	飯田広夫（北海道大学医学部）	武田ビル
38	1972.02.26	大原達（北海道大学結核研究所）	ムトウビル 6F 講堂
42	1974.09.27	林喬義（札幌医科大学）	ムトウビル 6F 講堂
43	1975.09.26	林喬義（札幌医科大学）	ムトウビル 6F 講堂
44	1976.09.17	熊谷満（北海道立衛生研究所）	北海道立衛生研究所共用東講堂
45	1977.09.30	熊谷満（北海道立衛生研究所）	ムトウビル 6F 講堂
46	1978.09.29	鈴木武（北海道大学歯学部）	北海道立衛生研究所共用東講堂
47	1979.09.22	鈴木武（北海道大学歯学部）	北海道大学歯学部講堂
48	1980.09.26	梁川良（北海道大学獣医学部）	ムトウビル 6F 講堂
49	1981.09.17	梁川良（北海道大学獣医学部）	ムトウビル 6F 講堂
50	1982.09.17	山本健一（北海道大学免疫科学研究所）	ムトウビル 6F 講堂
51	1983.09.09	黒田収子（北海道薬科大学）	-
52	1984.10.26	飯田広夫（北海道大学医学部）	ムトウビル 6F 講堂
53	1985.09.13	飯田広夫（北海道大学医学部）	ムトウビル 6F 講堂
54	1986.09.19	伊佐山康郎（家畜衛生試験場北海道支場）	ムトウビル 6F 講堂

回	開催年月日	総会世話人 / 総会長	総会開催場所
55	1987.09.25	小熊恵二（札幌医科大学医学部）	ムトウビル 6F 講堂
56	1988.10.21	小熊恵二（札幌医科大学医学部）	大通り公園ビル（ヤクルト）会議室
57	1989.09.29	宮川栄一（家畜衛生試験場北海道支場）	家畜衛生試験場北海道支場会議室
58	1990.09.28	宮川栄一（家畜衛生試験場北海道支場）	-
59	1991.11.15	皆川知紀（北海道大学医学部）	ムトウビル 6F 講堂
60	1992.11.20	皆川知紀（北海道大学医学部）	北海道大学百年記念会館講堂
61	1993.11.13	平棟孝志（酪農学園大学獣医学部）	酪農学園大学獣医 3 号館
62	1994.10.29	中島良徳（北海道薬科大学薬学部）	北海道薬科大学
63	1995.10.07	馬場久衛（北海道医療大学歯学部）	北海道医療大学 P1 講堂
64	1996.09.21	江口正志（家畜衛生試験場北海道支場）	農林水産省北海道農業試験場
65	1997.10.25	渡邊継男（北海道大学歯学部）	北海道大学学術交流会館
66	1998.10.24	都築俊文（北海道立衛生研究所）	北海道立衛生研究所講堂
67	1999.10.23	藤田晃三（札幌市衛生研究所）	札幌市衛生研究所
68	2000.09.28-29	中根明夫（弘前大学医学部）	弘前大学医学部
69	2001.10.27	絵面良男（北海道大学水産学部）	北海道大学水産学部
70	2002.10.26	菊池直哉（酪農学園大学獣医学部）	酪農学園大学学生ホール
71	2003.09.14	大山徹（東京農業大学）	東京農業大学
72	2004.09.03	藤井暢弘（札幌医科大学）	札幌医科大学記念ホール
73	2005.09.17	柴田健一郎（北海道大学）	北海道大学学術交流会館
74	2006.09.02	磯貝浩（札幌医科大学）	ムトウビル 6F 講堂
75	2007.09.08	中澤太（北海道医療大学）	北海道医療大学サテライトキャンパス
76	2008.09.06	鈴木定彦（北海道大学）	北大獣医学研究科附属動物病院講堂
77	2009.09.18	山口博之（北海道大学）	北海道大学百年記念会館
78	2010.09.03-04	田村豊（酪農学園大学）	北大百年記念会館・酪農大学生ホール
79	2012.08.28-29	川本恵子・倉園久生（帯広畜産大学）	とかちプラザ 2F 視聴覚室
80	2013.08.30-31	丹羽光一（東京農業大学）	東京農業大学生物産業学部
81	2014.08.29-30	横田伸一（札幌医科大学）	札医大医学部臨床教育研究棟 1 階講堂
82	2015.09.05	中澤太（北海道医療大学）	北海道医療大学心理科学部 4F 講義室

日本細菌学会北海道支部
平成 **28-29** 年度新役員・名誉会員名簿

平成 28-29 年度 日本細菌学会北海道支部会 役員名簿（敬称略）

評議員	所属
○磯貝 浩	札幌医科大学医学部動物実験施設部
大山 徹	北海道文教大学人間科学部健康栄養学科
○川本 恵子	帯広畜産大学動物食品衛生研究センター
○倉園 久生	帯広畜産大学畜産衛生学研究部門食品衛生学分野
菊池 直哉	酪農学園大学獣医学群感染・病理学分野
木村 浩一	北海道文教大学人間科学部健康栄養学科
小林 宣道	札幌医科大学医学部衛生学講座
○柴田 健一郎	北海道大学大学院歯学研究科口腔病態学分野口腔分子微生物学
杉本 千尋	北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター国際協力教育部門
鈴木 定彦	北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター国際疫学部門
田村 豊	酪農学園大学獣医学群衛生・環境学分野
中澤 太	北海道医療大学歯学部口腔生物学系微生物学分野
丹羽 光一	東京農業大学生物産業学部食品香粧学科
東 秀明	北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター感染・免疫部門
樋口 豪紀	酪農学園大学獣医学群衛生・環境学分野
○山口 博之 [#]	北海道大学保健科学研究院病態解析学分野感染制御検査学
○横田 伸一 [*]	札幌医科大学医学部微生物学講座

○: 本会評議員、[#]: 本会理事、^{*}: 支部長

幹事	所属
臼井 優	酪農学園大学獣医学群衛生・環境学分野
大西 なおみ	北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター感染・免疫部門
相根 義昌	東京農業大学生物産業学部食品香粧学科
白石 宗	札幌医科大学医学部微生物学講座
高橋 晃一	札幌医科大学医学部動物実験施設部
豊留 孝仁	帯広畜産大学動物・食品検査診断センター食品リスク分野
中島 千絵	北海道大学人獣共通感染症リサーチセンターバイオリソース部門
長谷部 晃	北海道大学大学院歯学研究科口腔病態学分野口腔分子微生物学
松尾 淳司	北海道大学保健科学研究院病態解析学分野感染制御検査学
宮川 博史	北海道医療大学歯学部口腔生物学系微生物学分野
村田 亮	酪農学園大学獣医学群感染・病理学分野

会計監事	所属
鎌口 有秀	北海道医療大学歯学部口腔生物学系微生物学分野
小華和 柁志	北海道大学大学院医学研究科医学教育推進センター

名誉会員

林 喬義 先生

梁川 良 先生

編集後記

今年の 1 月から北海道支部会長を仰せつかりました。ご存じのとおり近年細菌学会の会員数の減少、さらには学会の財政状況の逼迫というきびしい状況の中、北海道支部として何ができるのかを考えていかななくてはなりません。幸いなことに前支部長の山口先生が次々と新しいアイデアで活性化を図っていただいたおかげで、北海道支部の支部会員数は学生会員を中心にむしろ増加している状況です。また、支部学術総会の一般演題は、昔のように出していただくように個別にお願いをしなくても、スケジュールを組むのが大変なくらい集まる状況になっています。当番の研究室は演題を遠慮するといったことも聞きます。支部会のこの活力を維持することができれば細菌学会全体としても光が見えてくるのではないのでしょうか。

若手の参加が増えた一つの理由に支部会賞があると思います。柴田先生が今回の会報でも触れておられますが、公平性を担保するために評価方法に一定のルールを設けた方がいいような気がしています。全員投票では大きい研究室の人が得をするとか、同じ人が何回も受賞しているとかいったことについて考えていく必要があるでしょう。来年、それらについて議論をしたいと思っています。

さて、支部長として今後何をすべきかなのですが、ここは若手に頑張ってもらって年寄りはそのを眺めているという風にしたいと思っています。まずは昨年に山口前支部長にお願いして幹事メンバーの見直しを図りました。幹事の先生方には、支部会運営に積極的に参加していただくようお願いいたします。それほど大変なことを要求するつもりはありません。少しの力でも皆さんがかかわっていただければ大きな力となるはずです。まずは、支部学術集会の座長はできるだけ幹事の先生にお願いし、支部会報の企画、編集を担当していただくことにしました。この号がその 1 回目となります。若手というと、北海道(札幌近郊が主ですが)で微生物を研究対象としている若手研究者の間に自然発生的にできた異分野交流を目指した会がいくつかあることを知りました。今回の会報ではそれらを紹介していただくという特集を組んでいます。支部会であれこれ新しい試みを立ち上げるよりもこのような会をバックアップしていく方がいいと思いました。本特集を見て興味を持たれた会員の先生方にもぜひ参加していただくようお願いいたします。支部会のホームページやメーリングリストを活用して情報を発信していきたいと思っています。今後ともよろしくお願い申し上げます。

平成 27 年 12 月
細菌学会北海道支部会長
札幌医科大学 医学部 微生物学講座
横田 伸一

日本細菌学会 北海道支部会報 第 24 号 2015 年 12 月

編集主幹

横田 伸一 (日本細菌学会北海道支部長 / 札幌医科大学医学部)

編集委員長

白石 宗 (札幌医科大学医学部)

編集委員

臼井 優 (酪農学園大学獣医学群)

大西 なおみ (北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター)

相根 義昌 (東京農業大学生物産業学部)

高橋 晃一 (札幌医科大学医学部)

豊留 孝仁 (帯広畜産大学動物・食品検査診断センター)

中島 千絵 (北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター)

長谷部 晃 (北海道大学大学院歯学研究科)

松尾 淳司 (北海道大学保健科学研究院)

宮川 博史 (北海道医療大学歯学部)

村田 亮 (酪農学園大学獣医学群)

発行 : 日本細菌学会北海道支部

事務局:札幌医科大学 医学部 微生物学講座

〒060-8556 札幌市中央区南 1 条西 17 丁目

Tel : (代表) 011-611-2111 (内線) 2712

Fax : 011-614-3732